

アンケート調査票

自己評価委員会

調査票の記入の前に

この調査の目的は、学生諸君の勉学に関する意識や態度と、本学の授業に対する評価を調査し、今後の大学の教育を改善するために行うものです。選択肢のある設問が全部で30問あります。初めに、各選択肢から一つだけ回答を選び、調査票の番号に○をつけて下さい。また、意見を求める設問もありますので、何か意見があれば、指示された欄に記載して下さい。率直な意見を期待します。

次に、配布されたマークシートのA欄に選択した番号をマークして下さい。マークシートには名前、学生番号を記入する必要はありません。調査票・マークシートとも回収しますが、すでに別の機会にアンケートに応じた人は、今回のアンケートに回答する必要はありません。

あなた自身とあなたの生活について尋ねます。

1. 何年生ですか 1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生 5. 過年度生
2. 所属学科は（まだ所属していない人は回答する必要はありません）
1. 経済 2. 商 3. 企業法 4. 社会情報 5. 商業教員養成
3. 住居は
1. 小樽で自宅 2. 札幌で自宅 3. 小樽で下宿／アパート／マンション
4. 札幌で下宿／アパート／マンション 5. その他
4. 課外活動は
1. 体育会所属 2. 体育系同好会 3. 文化系サークル 4. 所属していない
5. アルバイトを
1. 週に4日以上 2. 週に1～3日くらい 3. 休暇の時など不定期に
4. （現在は）していない 5. これまでアルバイトをしたことはない
6. 自宅での勉強は
1. 授業の必要な予習やゼミの準備、試験勉強はするが、それ以上はしない
2. 予習や試験勉強以外には、評論的な雑誌を読むくらいで、専門書は読まない
3. 予習や試験勉強以外に、講義・ゼミに関連した専門書、雑誌をよく読む
4. 予習や試験勉強以外に、資格試験や英会話等の勉強をしている
7. 資格取得のために、在学中に大学以外の学校に通ったことがありますか。
1. 英会話の学校 2. 英語以外の語学学校 3. 会計・簿記関係
4. 情報関係 5. その他（ ）

入学について尋ねます。

8. 入学試験では 1. 数英選択 2. 国英選択 3. 推薦入学 4. その他（編入など）
9. 商大は 1. 第一志望 2. 第二志望（第一志望は経済系学部）

3. 第二志望（第一志望は経済以外の文系学部）
4. 第二志望（第一志望は理系学部） 5. その他

10. 商大を志望した

1. 商学部の勉強をしたかったから
2. 自分の学力で入れそうだったから
3. 地元の国立大学で経済的だから
4. 小樽／北海道の風土に引かれたから
5. 就職が良いという評判があったから

自分の所属する学科について尋ねます。（まだ学科に所属していない人は回答する必要はありません）

11. 第一志望の学科を選択した際の動機は

1. 当該学科の科目を勉強したいと思ったから
2. 当該学科のゼミに入りたいと思ったから
3. 希望する就職にはその学科に所属することが有利だと思ったから
4. 単位の取得が容易だと思ったから
5. その他（ ）

12. 現在の学科は 1. 第一志望であった 2. 第二志望 3. 第三志望 4. 第四志望
5. その他

13. 自分の所属している学科に

1. 非常に満足 2. 満足 3. 普通 4. 不満 5. 非常に不満

具体的にどのような点が満足／不満ですか。学科所属の方法等についても意見をお聞かせ下さい。

{ }

出席状況について尋ねます。

14. 履修登録している科目の数は

1. 20科目以上 2. 19～15 3. 14～10 4. 9～5 5. 4～0

15. それらの科目の中で実際に80%以上出席している授業の数は

1. 20科目以上 2. 19～15 3. 14～10 4. 9～5 5. 4～0

16. 出欠のパターンは

1. 履修した科目はだいたい出席する
2. よく出席をする（80%くらい）科目と、ほとんど出席しない（20%以下）科目とに明確に分かれる
3. どれも50%くらいは出席する
4. 50%くらい出席する科目とほとんど出席しない科目に分かれる
5. ほとんど出席しない（20%以下）

17. 上で2ないし4を選択した人は、出席（欠席）の基準を下から1つだけ選んで下さい。

1. 講義や先生がおもしろい授業には出席する
 2. 自分の興味のある授業には出席するが、興味のないものは欠席する
 3. 出席をとる授業には出席する
 4. クラブ活動のある時間は出席しない
 5. 卒業に影響のある科目は出席する
- その他（ ）

授業の内容について尋ねます。

次の科目群別に、自分が受講した／受講している授業の内容（説明の仕方、題材、程度、おもしろさ、etc）を総合的に評価して下さい。そして具体的にどのような点が満足／不満なのかを、括弧の中に書いて下さい。（受講したことがない科目については回答する必要はありません）

18. 外国語（英語）
1. どの授業も平均的に満足
 2. どれも普通
 3. どれも平均して不満
 4. クラスによって異なるが、満足できる授業が多い
 5. クラスによって異なるが、不満な授業の方が多い

意見

{ }

19. 外国語（英語以外）
1. どの授業も平均的に満足
 2. どれも普通
 3. どれも平均して不満
 4. クラスによって異なるが、満足できる授業が多い
 5. クラスによって異なるが、不満な授業の方が多い

{ }

20. 保健体育科目（理論と実技）
1. 理論、実技とも満足
 2. 普通
 3. 両方とも不満
 4. クラスや運動の種類によって異なる

{ }

21. 基礎教育科目（経済学概論、商学概論、法学概論、社会情報概論、数学）
1. どの科目も平均的に満足
 2. どれも普通
 3. どれも平均して不満
 4. 科目によって異なる
 5. 担当する先生によって異なる

{ }

一般教育科目

2 2. 人文科学系科目（哲学、倫理学、心理学、歴史学、日本文学、外国語文学）

1. 履修した科目はどれも満足
2. どれも普通
3. どれも平均して不満
4. 科目によって異なるが、満足できる科目が多い
5. 科目によって異なるが、不満な科目が多い

{ }

2 3. 社会科学系科目（社会学、社会思想史、教育学、政治学、社会科学概論）

1. 履修した科目はどれも満足
2. どれも普通
3. どれも平均して不満
4. 科目によって異なるが、満足できる科目が多い
5. 科目によって異なるが、不満な科目が多い

{ }

2 4. 自然科学系（物理学、化学、自然科学概論）

1. 履修した科目はどれも満足
2. どれも普通
3. どれも平均して不満
4. 科目によって異なるが、満足できる科目が多い
5. 科目によって異なるが、不満な科目が多い

{ }

専門科目（他学科の科目でも受講した科目について評価して下さい）

2 5. 経済学科の科目

1. 履修した科目はどれも満足
2. どれも普通
3. どれも平均して不満
4. 科目によって異なるが、満足できる科目が多い
5. 科目によって異なるが、不満な科目が多い

{ }

2 6. 商学科の科目

1. 履修した科目はどれも満足
2. どれも普通
3. どれも平均して不満

4. 科目によって異なるが、満足できる科目が多い
5. 科目によって異なるが、不満な科目が多い

27. 企業法学科の科目

1. 履修した科目はどれも満足
2. どれも普通
3. どれも平均して不満
4. 科目によって異なるが、満足できる科目が多い
5. 科目によって異なるが、不満な科目が多い

28. 社会情報学科の科目

1. 履修した科目はどれも満足
2. どれも普通
3. どれも平均して不満
4. 科目によって異なるが、満足できる科目が多い
5. 科目によって異なるが、不満な科目が多い

29. 商業教員養成課程の科目

1. 履修した科目はどれも満足
2. どれも普通
3. どれも平均して不満
4. 科目によって異なるが、満足できる科目が多い
5. 科目によって異なるが、不満な科目が多い

30. 演習（1年生やゼミに所属していない人は回答する必要はありません）

1. 期待した以上に評価できる
2. 満足しているが、改善すべき点がある。
3. 普通
4. 期待したほどではない。

以上でアンケートは終わりです。ご協力有難うございました。

あ と が き

自己評価委員会

委員長 篠崎 恒夫

聞くところによると、本学の公開講座は「公開講座」と銘うったかどうかはともかく、高商時代の古くから行われていたとのことである。その意味では、開かれた高等教育機関であり得たわけである。それがいつの頃からか、大学と地域社会との間柄が縁遠くなってしまっていた。自己評価活動は、主体的な自己点検であるにしても、その根本的な狙いは、大学の生の姿を広く社会に示して、社会との有機的な結び付きの中から自己を活性化することにある。

お題目はともかく、曲がりなりにも自己評価報告書の第1号を送り出すことができた。平成3年12月に前身の「教育・研究システム検討委員会」が発足してから2年半のことである。取り掛かってみると、「自己評価」と言いながら「自己」がこれほど難しいとは思わなかったと言うのが、終わってみての実感である。なんとかしなければいけないなど思っていることでも、いざ表だつて的確に問題を把握し、それに客観的な評価を与えることの難しさ、単科大学という小世帯ながら意外と身内のあり方に疎いことを知らされることなど、やはりやってみなければ実感し得ないこと草ではあった。

今回の報告書の目玉はなんといっても、個々の学科・系の教育方針の主張と学生のアンケート評価のぶつかり合いのドラマであろう。単に報告書に盛られた要約で学生の声を聞いたとして済ましてしまうのではなく、アンケートの個表を全学の教官が回し読み、そこに学生の日常のあり方の一面を知ることが、今後の本学の改革の方向付けに有益であると思われる。

ところで本委員会の今後の課題であるが、

教官研究のあり方

入試制度

事務局体制

全学予算のあり方

シラバス、報告書類の体系化

など、結構大学のあり方の本質的問題を残している。これらの問題に対する本学構成員の主体的論議が自己変革の方向付けとなることを願う次第である。

終わりに、本報告書がなるに当たっては、上述の「教育・研究システム検討委員会」からの教官、職員の多大なる努力が傾注されていることを記さねばならない。

同委員会の発足時においては、の各委員が委員会を構成し、本学自己点検・評価活動の体制を作り上げた。

委員長・学長	藤井 栄一
学生部長	井上 巽
短期大学部部長	山田 家正
事務局長	斉藤 忠雄
教授	本間 正義 (経済学科)
教授	篠崎 恒夫 (商学科)
教授	神田 孝夫 (企業法学科)
助教授	加藤 修一 (社会情報学科)
助教授	荻野 富士夫 (一般教育等)
助教授	君羅 久則 (言語センター)

上記委員会が築いた基礎の上に、第1期の自己評価委員会が発足したが、その委員には、

委員長・教授	篠崎 恒夫 (商学科)
副委員長・教授	加藤 修一 (社会情報学科)
教授	佐竹 正夫 (経済学科)
教授	久々湊 伸一 (企業法学科)
教授	片岡 正光 (一般教育等)
教授	君羅 久則 (言語センター)
学生部長	秋山 義昭
附属図書館長	村山 出
事務局長	川崎 晃

の各委員が当たられた。副委員長をはじめとしてその献身的な努力に謝する次第である。

特に、上記アンケート調査においては、佐竹委員が自ら厄介な作業をかって出られ、まとめきられた。記してその労に報いる次第である。

平成6年3月